

「2年生 農村民泊学習（令和4年10月25日～27日 2泊3日 大分県国東市）」

国東市における農村民泊学習は、稲刈り、芋等の野菜や果物の収穫と出荷の準備、畑の開墾、動物の世話等の農作業の他、竹はし作り、そば打ちやお菓子作り等、日常経験しないことを体験する事が出来ました。

この農村民泊学習の意義は、農業への理解の他に「感謝の心を大切にすること」です。自然と向き合う農業の大変さを体験し、「働くことへの感謝」、「食べることの感謝」、そして受け入れ家庭の方とのふれあいを通して、「当たり前」に生活している家族への感謝」と思います。2泊3日の体験学習を通して、「感謝する心」が一層大きく育つことを願っています。

受け入れ家庭の方は、新型コロナウイルス感染防止に細心の配慮をして、わが子と同じように温かいお世話と様々な体験を準備していただき、たくさんの思い出を作ることができました。心から感謝しています。

最後に保護者の皆様には、農村民泊学習に向けての準備等について、ご理解とご協力に心から感謝申し上げます。



○生徒の感想

僕は今までずっと何も考えず、ただ手を合わせて「いただきます。」と言っていました。でも米等は、長い時間をかけているんな農家の人たちが大切に育てているんだという話を聞いて、僕は米や肉とかも、誰かが自分たちのためにしてくれているんだと感謝して、手をしっかりと合わせて「いただきます。」と言って食事をしたいと思いました。

自分が作った野菜を名前も知らないたくさんの人が笑顔で食べてくれるとうれしいということも農家さんのやりがいで、どんな大変な仕事も頑張れると教えてもらった。



今回私たちがした作業は、里芋とサツマイモ掘りです。どちらの作業も体全体を使ったり、農機具が重くてとても大変でした。しかし傷一つなく掘れた時や素早く丁寧にとれた時は、とてもうれしくて達成感がありました。作物を育てて出荷する様子を見て、嫌いな食べ物も頑張って食べようと思います。



今回の農泊で一緒に過ごした6人と、とても楽しく過ごせたと、きついこともがんばれました。とても友達の大切さに気づくことができました。

しちとうい（国東市でのみ生産されるい草（畳の材料））を使って、ほうきを作りました。たった3日間だったけど、別れはとてもさみしかったです。



この農泊を通して、改めて人の温かさを感じました。

いつもあたりまえに食べている食事の裏側には、たくさんの苦勞があることで。その苦勞を体験したことで、食べ物に対する感謝の気持ちが強くなりました。

初めて稲刈りをして、最初は大変だったけど、稲をたくさん刈っていると簡単に刈ることができて、スピードが速くなりました。その後米運びをして、稲を袋に詰めて、袋一つの重さを30キロで2人で一つ持ってトラックに載せました。70袋積んでとても疲れしました。

